

平成 19 年度  
宮津ブランドの確立とまちなか観光モデル事業

全体報告書

平成 20 年 3 月

宮津商工会議所

平成 19 年度 中心市街地にぎわいづくり支援事業  
全体報告書 目次

第 1 編	まちなか観光推進事業	1
第 2 編	人材育成事業	11
第 3 編	宮津ブランド確立事業	26

## 第1編 まちなか観光推進事業

## 第1編 まちなか観光推進事業

### まちなか観光分科会

日 時 平成19年5月22日(火)午前10時

場 所 宮津商工会議所

出席者 8名

#### 内 容

##### 1) まちなか観光分科会委員推薦について

稲葉座長より、第三者的視点、広い人脈等を期待する点が多々あり是非委員に就任いただきたい旨説明。

- ・(社)天橋立観光協会 専務理事 尾崎吉晃氏
  - ・丹後バリバリ応援隊 吉岡政彦氏(宮津市出身、元吉岡旅館)
- 上記の方々を委員として委嘱し、次回分科会より出席願う方向で了承。

##### 2) 平成19年度まちなか観光分科会事業説明

- ・稲葉座長より18年度の、ぶら〜りまち歩きマップは旅館等で好評であり、まち歩き事業のアンケート結果にもあった、まちなか案内板を今年度は制作。材料は天橋立名松リバーズの倒木松を使い、デザインは府立大学の三橋教授に協力をお願いし、他地域で宮津を良くしたいと考えておられる方やグループ(丹後バリバリ応援隊等)などにも参画頂きたい。
- ・地域住民を巻き込んでいくにはどうするかが課題である。
- ・看板(サイン)制作がメインの事業であるが、地域住民を巻き込むため勉強会も考えるべきではないか。
- ・宮津市では、『まちなか観光推進協議会』を開催し、各団体が別々にやっていることを報告しあう会を持つことを考えている。
- ・トイレを貸し出してくれる家も必要 トイレ貸します等のかけ札の作製など。
- ・3年目は文珠から観光客を連れてくる仕組みをつくるべき。
- ・次回(6月)新委員を加えた分科会で事業・今後のスケジュール等を決めていく。その後、三橋教授にも参加頂き、看板(サイン)に関する分科会の希望、要望等を聞いてもらった上で作製してもらう。

日 時 平成19年6月22日(金)午後7時

場 所 宮津商工会議所

出席者 12名

#### 内 容

##### 1) 平成19年度の取り組みについて

- ・事務局より昨年度のマップ制作における課題や、まち歩き事業の中でアンケート結果にもあった、まちなかのサインがわかり難いとの意見が出たことから、今年度は天橋立の倒木松を使った案内板（サイン）作りを考えている旨報告した。
- ・倒木松は、強度の問題があり、使いみちがあまりないが、まちづくりに繋がる案内板（サイン）になればと思う。
- ・通り名の紹介すら無いことが原点である。他地域から来られた方に優しい町であるべき。また、まち歩き事業の際、どこがどこかよく分らないということを感じた。今年度はいたるところにデザイン的に統一したものがあり、それをたどっていけば歩いていけるものを制作してはどうか。
- ・案内板もいいが、「トイレ貸します」という看板も必要ではないか。トイレは市民を巻き込む一つの手立てだと思ふ。
- ・松の木の汚れや傷みなど気になるころではあるが、天橋立の松を宮津市内に使わせてもらえるというのは大変インパクトがあり、魅力的である。

## 2) 年間スケジュールについて

- ・まちなかに置くよりインターから天橋立に行く道中に、目を引くようなもので数を決めて設置するべきではないか。小さなものをたくさん作るのはいかが？
- ・サインを作って終わりではないし、次に何をすべきか考えなければならないのでサイン設置は11月中にやりたい。
- ・次回分科会は、7月第2週で先生の予定に合わせ開催する。

日 時 平成19年7月10日（火）午後7時

場 所 宮津商工会議所

出席者 16名

内 容

### 1) 三橋教授のご紹介

三橋先生よりゴールはこのまちの魅力を掘り起こし、どう発信していくかである。そういった盛り上がりが一番大切である。今後宮津をどう磨いていくか、期限つきではあるが協力していきたい。

### 2) まちなか案内板（サイン）について

- ・マップのコースを中心としたサインづくりがメインだが、はずれた所にサインをおくことも考えている。また、マップ上に表示のないものにサインを作るのもいいのではないか。
- ・点を線に結ぶ何かが足りない。繋ぐものがないという一番の原因は、市民の観光に対する意識ではないか。その意識づけをするための事業だと思っている。また、サインをたくさん作ることで観光客に観光のまちをPRで

きる。

- ・観光地としての意識を持ったおもてなしの気持ちが小さなサインなら、そんなに予算もかからないし、今年だけで無理なら来年以降も増やしていけるのでは。
- ・名松リバースの松を使うことだし、駐車場とか駅とかに置くことを考えた大きなものを作ったほうがよいのではないか。
- ・外から来た人が望むのは誘導サインか、おもてなしサインか？両方できればいいが、慎重に考えるべきである。
- ・サインは点から線への要素ではあるが、店作りも必要ではないか。歴史文化があるだけではダメだし、それに触れながらサインにより点から線に結びつきたい。しかし、新たなサインを作るとなると今あるサインと重複するし、景観や、まちなみとの関係もある。観光客にとってどういったものかイメージがわからない。平成 15 年に市街地を中心に通り名板を作った。混在する恐れもある。
- ・個々にはポツポツといいものがあるが線にはなっていない。サインは町に溶け込むと目立たないし、わからないとサインの意味がない。サインも大切だが、案内人がいなく、説明する人がいないほうが問題である。
- ・市民の方がおもてなしのメッセージを伝えられるほうが持続のエネルギーになっていくのではないか。今やっていることを市民に知ってもらい、巻き込むためのサイン作りである。

### 3) 今後について

- ・次回 7 月 30 日 (月) までに各自サインのおもてなしメッセージ等を提出頂く。

日 時 平成 19 年 7 月 30 日 (月) 午後 7 時

場 所 宮津商工会議所

出席者 11 名

内 容

#### 1) まちなか案内板 (サイン) について

- ・事前に提出いただいていたサイン案のまとめたものを事務局より説明。
- ・三橋教授より資料及びサイン案を説明。  
モダンだけど質のあうものをと考えデザインした。リバース松にコーティングを施し、予算にもよるが 10 ~ 20 点を作製してはどうか。
- ・ゲーム性は取り入れられないか？見て楽しむことはできないか？次を探して歩けるようなサインを。例えば、宮津弁が解説されていて、それをたどって歩くなど楽しみつつ学べるなど。
- ・宮津のまちなかを歩かせようとする歩かせるものがないので、歩く楽しみ

をつくる。また、看板はたくさんあるので同じものを作っても仕方がないと思う。

- ・文字が立体印刷されているような一体性があれば、サインの形は変わっていてもいいと思う。また、質の落ちないものを作製。
- ・宮津のまちなかを知ってもらいたい人にメッセージを出してもらおう等、市民の巻き込み方を考えるべきだと思う。

## 2) 今後について

- ・方言を使った、おもてなしの心のあるサインを製作する。
- ・方言やお得情報、写真情報など例えばというものを三橋先生に出していただきたい。

日 時 平成19年9月10日(月)午後7時

場 所 本町会館

出席者 13名

内 容

### 1) まちなか案内板(サイン)の表示内容・形について

- ・三橋先生より作成・持参いただいた資料の説明。  
パネルの形ではなく、味わいのあるメッセージが必要。案内板は支柱タイプのアイランド型1~2基と壁掛け型を4~5枚、小壁掛け型は1~2枚制作してはどうか。
- ・方言を入れるのは、知らない言葉もあるし、方言を残していく方法としても面白い。
- ・シンボルマークやおもてなしマークは統一的でよいと思う。解説ではなく、昔ここで何があったかなど、エピソードが残ればよいと思う。歴史の深いところまでは必要ないと思う。
- ・花街の時代の話をもとに元芸妓さんに聴いてはどうか。
- ・四軒町に看板がほしいと思ったときに語ってくれる人がほしい。
- ・モデル的、集中的にやってみて改善を重ねていく。通りに着目するのは賛成である。
- ・古い格子戸などを残すチャンスだと思う。方言で長い文章を作ったものを案内板に入れる。

### 2) まちなか案内板の設置場所の絞込みについて

- ・三上家や西堀川の通りにも入れたほうがよい。まちなか観光を盛り上げるためのモデルとして、又、いろいろな人にまちなか観光をしてもらえるような場所に設置をしたい。
- ・昼間行き来するところに重点的に設置する。
- ・新浜海岸通り、新浜通り、新浜四軒町、新浜勘左衛門通りを中心として設置。

### 3) 方言を使った文章案

- \*よんのう 暗なったなあ (すっかり 暗くなりましたね)
- \*かったに あけへんでえ ほんまに・・・(全く ダメだよ ほんとに・・・)
- \*こうじゃいげえに しとんなるで (なまいきにしている)
- \*こぼっときな (しんぼうしなさい)
- \*ひいさ やつとんなったで (長いこと しておられた)
- \*なつべといて～な (しまっておいて)
- \*しんきいことばかり言うて (めんどくさいことばかり言って)
- \*ええもん おっけ～な (いいもの or お菓子下さい)
- \*がっさい きれいで いかめ～なあ(とても きれいで うらやましい)
- \*もんげ～ おもしろい (とても おもしろい)
- \*あの子ばかりひいきにして にすいわ  
(あの子ばかりひいきにしてずるいわ)

### 4) 今後について

- ・ 方言、シンボルデザイン、サインのデザイン等の検討(具体化する)
- ・ 現地に看板模型を立てたり、吊り下げてみたりして現場確認してはどうか。
- ・ 次回10月15日(月)午後4時に商工会議所に集合した後、三橋先生にお願いしている案内板(サイン)の模型を実際に掲げて、現地視察し、その後分科会を開く。

日 時 平成19年10月15日(月)午後4時  
場 所 新浜界限、宮津商工会議所  
出席者 14名  
内 容

#### 1) 現地確認(新浜界限)

三橋教授に持参いただいた仮看板を新浜の数箇所に置き、設置場所として適当かどうか、何箇所くらい設置すれば見てもらえるのか確認した。





## 2) まちなか案内板(サイン)について

- ・設置場所が個人宅なら許可をとるのか？見栄えがするのはアイランド型が何箇所かあればお客さんに見てもらおう効果はあると思うが、今の新浜を歩いてもらえることが想像できない。予算の限りたくさん置いたほうがいいと思う。
- ・古い写真を飾って見てもらえるようなものなど、その町の人々が作ったものを街角で見せる、まちなみギャラリーも一考。
- ・新浜は夜の街で業種によって違うが、路地を活かして宮津らしさを表現できないか。
- ・小路の入口にちりめん暖簾を作してほしい。また、赤い毛氈を引いた場所で智恵の餅を食べながらゆっくりできる場所を作ったり、土日にちりめん小物が売ってある場所をポイント的に作ってあげるなどの配慮がほしい。
- ・観光客は寺町を狙ってくるのであろうが、何か食べるところや喫茶店等は新浜になるのではないか。そうなれば休んでもらう所も新浜になると思う。
- ・サインを作って終わったというのではなく、イベントを開催したり、商店街に協力を依頼して休憩する場所等考えていかなければならないと思う。
- ・人材育成のまちなか案内人の人と食と合わせてイベントができればいいのではないか。
- ・まちなか案内人やガイドの人から看板ができてよかったと思ってもらえるようなものを作るほうがよい。
- ・宮津を語るとき新浜の賑わいなくして語るができないので、夜だけでなく昼も賑わう場所として、まちなか観光の核としての新浜という考え方で進める。

## 3) 今後について

- ・4、50字で新浜の紹介と絵を絵手紙風で試作品を作ってもらい検討する。  
(三橋先生より坂東さん指名)

- ・案内人の方が研修を受けて、受け答えのできる範囲の内容での紹介文でいいのではないか。
- ・個人宅の設置許可によって数も変動する。
- ・次回は試作品のできる日に合わせて開催したほうがいいので、名松リバーズからの見積提出後に調整する。

日 時 平成19年12月11日(火)午後7時

場 所 本町会館

出席者 9名

内 容

1) 経過報告及び今後のスケジュール

- ・松材の乾燥と作成に1ヵ月半はかかること等事務局より説明。

2) まちなか案内板(サイン)設置場所について

- ・アイランド型は路地に、壁掛けタイプは民家の格子等に設置し、数としては、アイランド型2基、壁掛けタイプ6枚程度がいいのではないか。
- ・アイランド型を路地に置くのが適当であるかどうか。例えば新浜に1基、他所に1基という考え方は?
- ・浮世小路に置くのは唐突すぎるし、モニュメンタルなイメージである。内容も印刷風なところと手書き風なところのコントラストがよいのではないか。
- ・アイランド型を1基にし、予算が余るようなら壁掛けタイプを増やしていったらよいのではないか。
- ・シルクスクリーンや仕上げをきちんとやることで、提出いただいている見積もりより予算が膨れるのではないか。
- ・他所として、万町ギャラリーに今林家を紹介するようなサインは置けないものか?
- ・方向性を示すようなサインではなく、おもてなしの心のある、人づくりのためのサイン作製計画であることを念頭においてほしい。

【協議結果】

- \* 新浜Aさん宅      アイランド型1基(芸妓・舞妓・縞の財布イラスト)
- \* 新浜Bさん宅      壁掛けタイプ(歌舞練場のイラスト)
- \* 新浜海側          壁掛けタイプ(船の並んでいる海のイラスト)
- \* 丹後広域観光キャンペーン事業にて他数点設置。
- 新浜Cさん宅      壁掛けタイプ(丹後シスターズのギター等のイラスト)
- 新浜北側          壁掛けタイプ(魚づくしのイラスト)
- 白柏本通り      壁掛けタイプ(馬のイラスト)
- 予算により路地に小壁掛けも制作。

3) 今後について

- ・委員で担当を割り、設置許可を取っていく。面識のある方に協力を依頼し、お願いするのもひとつではないか。
- ・設置について許可を取った結果によって、どれをどこに使うのか決定するためもう一度年内に分科会を開く。
- ・方言を数枚分用意し、版下デザインは三橋先生に依頼する。
- ・絵の内容 構図・・・坂東さんに依頼。
- ・次回の日程調整について  
場所、個数、中身（絵・表現）を最終決定するため、方言等を考え年内に分科会が開催できるよう後日調整する。

日 時 平成20年1月9日（水）午後4時

場 所 宮津商工会議所

出席者 7名

内 容

1) サイン設置依頼状況について

新浜Aさん宅・・・アイランド型（芸者、縞の財布のイラスト）です承。

新浜Bさん宅・・・壁掛け型（歌舞練場のイラスト）です承。

丹後海陸交通さん・・・壁掛け型（砂浜、舟のイラスト）です承。

\* 丹後広域観光キャンペーン事業にて

新浜Cさん宅 壁掛けタイプ(三味線、ギター等楽器のイラスト)です承。

新浜北側 壁掛けタイプ(魚、カニ、とり貝などのイラスト)です承。

白柏本通り 壁掛けタイプ(馬、通りのイラスト)です承。

上記の方々には、座長さんと事務局のほうで了解をいただいているが、取り付け場所、取り付け方法等のこともあるので、出来上がったサインを持参し再度、了解をいただく予定をしている。

看板の絵手紙の下書きが出来上がった時点で、分科会を開催したいが、設置までの時間的制約もあるので、正副座長さんで内容を確認し、看板制作に入ることと了解を得た。

2) サイン制作及び今後について

- ・2月中下旬に設置し、予算が許せば、ホームページ掲載のマップの修正を図りながら、今回のサイン設置場所をマップ上におとしてアップしたい。

日 時 平成20年3月10日（月）午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 5名

内 容

## 1) まちなか案内板設置報告

- ・事務局より2月下旬に新浜通りを中心として市内9箇所に設置した案内板とまち歩きマップ修正について説明し、近日中にプレス発表を行うと伝えた。
- ・自然の倒木松を使用したため、看板の表面が黒く変色している物もあったが、貴重な地元松を手に入れるのは難しいとのこと。又、案内板設置にあたり、地権者の方々には好意的に設置協力を頂いた。

## 2) 次年度へ向けて

- ・3年目は商店街など町の人にも協力を仰ぎ、まちなか観光の協力店などを依頼していきたい トイレ貸しますのミニ看板の製作など。
- ・まちなか案内人や宮津ブランドの食を巻き込み、3年目は観光客にまちなか観光を実際にしてもらおう仕掛けが必要。
- ・20年度は早い段階で、他の分科会と調整を図りながら事業を共同に推進していくことが必要。



新浜通り アイランド型 側面



新浜通り アイランド型 正面



新浜通り 壁掛け型



丹海バス宮津駅前営業所 壁掛け型

## 第 2 編 人材育成事業

## 第2編 人材育成事業

### 1. 人材育成分科会

日 時 平成 19 年 4 月 17 日 ( 火 ) 午後 2 時

場 所 宮津商工会議所

出席者 10 名

内 容

#### 1) 18 年度人材育成分科会事業報告

報告書に基づき報告

#### 2) 19 年度人材育成分科会の取組み

土井座長より当分科会委員が課題である 2 つの目的 ( 案内人・エリアマネージャー ) を十分理解願いたいと述べられた。

以下、主な意見。

- ・ガイド組織の事務局は会議所でないほうが望ましいと思う。

市・東氏より本年度、市としては「ふるさと観光塾」を開催予定、宮津の良さを紹介できる人材を育成する計画と報告。

これに対し出席者より会議所は案内人の養成を担当し、市は広く市民の当市の魅力の認識度引き上げを担当しては、との意見が出た。

- ・エリアマネージャーは各団体を集めて議論しても絞込みが難しいのである程度対象者は目星を付けて研修会を実施してはどうか。

以上の結果、事業計画の詳細については今後検討し、方向性を承認願った。当面以下の会議を開催する。

- ・先月の現地研修会においてアンケート調査の結果、ガイドの会議に出られると回答した方を招集し、今後の進め方と当方の考え方を説明する会議を 4 月 27 日に開催する。

日 時 平成 19 年 7 月 23 日 ( 月 ) 午前 10 時 30 分

場 所 宮津商工会議所

出席者 11 名

内 容

#### 1) 案内人組織化の準備状況報告

事務局より以下のとおり説明

人材育成分科会と案内人志願者との懇談会開催

4 月、6 月

案内人志願者会議開催

6 月、7 月、8 月

## 2) エリアマネージャーの育成について

### 主な意見

- ・人材の発掘が難しい、誰に呼び掛けるか
- ・まちづくりに関心のある団体に呼び掛けるのが早いのではないか
- ・趣旨を十分煮詰めておく必要がある
- ・まちなか観光推進協議会を活用しては
- ・どういう街にしていきたいか
- ・人材育成委員がエリアマネージャーであり、部下を育てていく

## 3) 今後の取組みについて

### 以下のとおり事務局より説明

- ・まちなか案内人の養成に向けて  
机上研修会、現地研修会 5 回開催  
視察研修 1 回
- ・エリアマネージャー育成について  
人材発掘研修会 2 回開催  
養成研修会 5 回開催  
人材育成塾開催、先進地の人材育成塾等への参加

日 時 平成 19 年 9 月 20 日 ( 木 ) 午後 1 時 30 分

場 所 宮津商工会議所

出席者 9 名

内 容

### 1) 案内人育成事業報告

事務局より、毎月 1 回案内人志願者が集まり案内人原稿について意見交換していることと、今後現地研修会や視察を実施すると報告

### 2) エリアマネージャーの養成について

座長より、エリアマネージャーになる人はビジョン推進特別委員会の山口アドバイザーによる指導や研修を重ねていただきたいと意見があった。マネージャーについては人材育成分科会の加畑 徹氏を指名し承認された。

加畑氏に協力願うメンバーの人選については次回会議に諮る。

日 時 平成 19 年 9 月 28 日 ( 金 ) 午前 11 時

場 所 宮津商工会議所

出席者 5 名

内 容

- 1) エリアマネジャー候補者について  
原案どおり承認された
- 2) 今後の取り組みについて  
候補者には後日、就任依頼する
- 3) 案内人先進地視察について  
視察の行き先は出石か篠山のどちらかで今後協議する

## 2. 案内人会議

日 時 平成 19 年 4 月 27 日 ( 金 ) 午後 1 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
出席者 12 名  
内 容 事務局より案内人になれば、どのような状況が予想されるのかイメージを説明。  
今後の取り組み方について意見を聴取した。  
以下主なもの  
・具体的な案内用資料の作成  
・実際にガイドしているところを見せていただきたい

日 時 平成 19 年 6 月 7 日 ( 木 ) 午後 1 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
出席者 18 名  
内 容

- 1) 案内人の組織について  
宮津観光ガイドの会との整合性を図るために今後調整する。
- 2) ガイドマニュアルについて  
ガイドマニュアルについては参考資料を自分たちが案内しやすいように改良する。
- 3) 研修会の内容について  
宮津市では本年度歴史講座を開催される。  
当分科会ではお客様への対応の仕方等の内容の講座を開催予定。  
研修は先進地視察、机上研修、まちなかマップを使った案内の仕方を本年度 5 ~ 6 回開催を予定している。
- 4) 意見交換  
主な意見  
・最初からいきなり研修でなく、案内に興味のある方が定期的に集まり、今

後の研修方法について意見交換することが必要。

- ・案内に興味のある方をもっと増やすため、今後もチラシ等で呼び掛けていく予定である。
- ・マニュアルとマップを与えられただけではガイドはできないので、まちなかマップの3つのコースを夫々班に分けて自分達でガイドの仕方を考える。

日 時 平成 19 年 6 月 25 日 ( 月 ) 午後 7 時

場 所 宮津商工会議所

出席者 12 名

内 容

1 ) 規約の制定について

現時点では案内方法を検討することが先決なため、もう少し先で検討する。

2 ) ガイドマニュアルについて

案内人志願者が「ぶら～りまち歩きマップ」の3つのモデルコースの中から希望のコースを選び、その希望のコース単位にグループ分けをして案内原稿を今後検討する。

日 時 平成 19 年 7 月 11 日 ( 水 ) 午後 7 時

場 所 宮津商工会議所

出席者 14 名

内 容

1 ) まちなかモデルコースの案内原稿について

案内人志願者が担当コース毎に分かれて案内原稿について協議した。

日 時 平成 19 年 8 月 7 日 ( 火 ) 午後 7 時

場 所 宮津商工会議所

出席者 9 名

内 容

1 ) まちなかモデルコースの案内原稿について

案内人志願者が担当コース毎に分かれて案内原稿について協議した。

日 時 平成 19 年 9 月 26 日 ( 水 ) 午後 7 時 30 分

場 所 宮津商工会議所

出席者 10 名

## 内 容

- 1) まちなかモデルコースの案内原稿について  
案内人志願者が担当コース毎に分かれて案内原稿について協議した。
- 2) 今後の取り組みについて  
協議の結果、以下のとおり決定した。
  - ・ 案内人だけの現地案内練習会  
10月24日(水) 午前10時 KTR宮津駅集合  
行程：宮津駅・一色稻荷・天主堂・和貴宮神社・天満宮・今林家・袋屋・三上家
  - ・ 先進地視察  
11月上旬 篠山か出石のいずれかで、行き先は正副座長、事務局に一任することが了承された。

日 時 平成19年11月30日(金) 午後7時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 13名

## 内 容

- 1) 先進地(篠山市)視察について感想  
参加者より主な感想
  - ・ 案内は基本的なもので良いと感じた。  
長々と説明すると、くどい印象を受ける、浅く広くで良い。
  - ・ ある程度行動しないと見えてこないと思った、何が必要かがわかってくる。
  - ・ 篠山のガイド組織設立からの会員に説明願ひ、経緯や組織、研修方法など大いに参考になり有意義な視察であった。
- 2) 今後の取り組み方について  
以下主な意見
  - ・ 市が主催した秋のまちなか観光塾はガイド向けではなく教養講座であった。ガイド向けは、それに特化しなければならない。
  - ・ 案内の補助的なものとして案内板も一般向けするものを設置して頂きたい。
  - ・ ガイド組織化は19年度中と考えているので、それに向かって研修内容を検討しなければならない。
  - ・ 事務局の考えの期限までは1人前の案内はまだ出来ない。もっと時間をかけて研修内容を検討しなくてはならない。今の志願者数では到底3月中の組織化は無理。
  - ・ 少人数では運営は難しい。

(結論)

組織の規約、運営方法等を次回会議で検討する。

日 時 平成 19 年 12 月 12 日 (水) 午後 7 時 30 分

場 所 宮津商工会議所

出席者 6 名

内 容

1) ガイド組織の規約について

事務局より原案を提出し意見を求め承認された。

尚、設立直前に最終案として決定する。

2) 業務申し合わせ事項について

事務局より原案を提出し意見を求めたところ、依頼主から徴収する案内人の「交通費」の表現を個人収入と思われないような表現にしよう再度検討する。

その金額について案内対象人数が 20 人までは 1,000 円 (案内人が 1 人付く) 21 人以上は 2,000 円 (案内人が 2 人付く) とすると修正する。

食事を挟んでの案内の場合、食事代は不要とする。

以上の申し合わせ事項も設立直前に最終案として決定する。

3) 今後の研修について

協議の結果、1 月下旬に梅本先生を講師としてまちなかの歴史を学ぶ研修会を開催する。

3. 案内人現地練習会

日 時 平成 19 年 10 月 24 日 (水) 午前 10 時

場 所 旧宮津町内

出席者 10 名

内 容 K T R 宮津駅から今林家までの名所、旧跡にて案内方法を練習した。

(練習箇所)

宮津駅前市街地案内板前、一色稻荷、大手橋、旧大村邸、天主堂、和貴宮神社、桜山天満宮、今林家



日 時 平成 20 年 3 月 10 日 ( 月 ) 午後 1 時  
場 所 旧宮津町内  
出席者 14 名  
内 容 国清寺、経王寺、本妙寺、見性寺、桜山天満宮について夫々現地で案内方法を練習した。



#### 4 . 案内人研修会

日 時 平成 20 年 1 月 18 日 ( 金 ) 午後 7 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
講 師 郷土史家 梅本 政幸氏  
出席者 24 名  
内 容 講師より、まちなかの名所、旧跡の案内の仕方について説明を受けた。



日 時 平成 20 年 2 月 7 日 ( 木 ) 午後 7 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
講 師 郷土史家 梅本 政幸氏  
出席者 21 名  
内 容 講師よりまちなかの名所、旧跡の案内の仕方について説明を受けた。



日 時 平成 20 年 2 月 26 日（火） 午後 7 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
講 師 郷土史家 梅本 政幸氏  
出席者 14 名  
内 容 案内人志願者が、まちなかの名所旧跡の案内練習を行い、講師より助言を受けた。



#### 5 . ガイド先進地視察

日 時 平成 19 年 11 月 19 日（月） 午前 8 時 30 分  
視察先 兵庫県篠山市  
参 加 8 名  
内 容 現地のボランティアガイドである「ディスカバーささやまグループ」の顧問 細見 昇氏から篠山市内の案内と組織の経緯並びに現状の説明を以下のとおり受けた。  
（篠山市内視察先）  
篠山城址、大書院、武家屋敷、歴史美術館、春日神社

### (組織の概要)

昭和 57 年から 1 年間実施された公民館活動「ふるさとの良さを知る会」受講者の有志が同会で得た知識を何か役立てることはないかとの意見が出され 30 名により発足。

現在会員数 28 名、男女構成比はやや男性が多い。

年齢は 50 代 1 人、あとは 60 代以上。

設立後 3 年間は当時の篠山町の商工観光課が世話をしていたが、その後完全に独立した。

依頼主からの連絡窓口は観光案内所に委託しているが自主運営である。事務局は会長宅である。

新入会員は先輩に 2 回同行し研修する。

案内マニュアルを入会時に渡す。

昨年の出勤回数は 260 回 案内客数は 10,500 人

年間を通じて案内は 11 月が最も多い。

案内までの手順は次のとおり

申込 観光案内所 会員を 3 班に分け、その中の世話人で担当者に打診 案内担当者決定返事 観光案内所

予約は 2 週間前までに連絡を求めている。

昨年より毎月第 2 土曜日の午前中に「土曜会」と称して各班が持ち回りで研修会を行っている。(テーマは各班で決める)

ボランティアであるが案内 1 回につき交通費として 1,000 円依頼主に負担願う。但し、報奨費ではなく会の寄付金収入としている。

各班の世話人には通信費として年間 2,000 円支給する。



### 6 . エリアマネージャー研修会

日 時 平成 19 年 11 月 2 日 ( 金 ) 午後 1 時 30 分

場 所 宮津商工会議所

講 師 (株)地域計画建築研究所 京都事務所 取締役 山口 繁雄氏

出席者 17 名

内 容 「まちなか観光」を推進するエリアマネジメントについて講演

1) 今なぜ「まちなか観光」か

宮津は、このままでいくと、どうなりそうか

宮津は丹後の拠点都市 衰退

- ・人口の減少、高齢化の進行、若年層の減少
- ・変化する産業構造、昼間人口の減少、就業場所として地位低下  
地域の経済基盤が低下している
- ・広域中心核、都市的サービス拠点としての地位の低下

宮津への観光客年間 250 万～260 万人 横ばいであり立ち寄り観光である

今後の課題と方向

- ・企業誘致による産業基盤の拡充・補強
- ・現有地域産業の強化
- ・新たな視点からの「新・観光産業」(交流産業)の創出

中心市街地を売り物にする

望まれる新・観光産業(交流産業)を基軸にした産業基盤強化策

- ・行政、商工会議所には立場があり、限界がある
- ・民間、観光組織が引っ張り役は公、民の中間組織(エリアマネージャー)が良い。 議論から実行へ

2) 「エリアマネジメント」の必要性

宮津の中心市街地を「観光地化」する必要

中心市街地の「観光地化」を推進する「人」と「組織」が求められる

「まちなか観光」を推進する組織(エリアマネジメント組織)の設立

3) エリアマネジメント組織のイメージ

「まちなか観光」化に向けてのエリアマネジメントのイメージ  
(中心市街地の観光地化)

エリアマネジメントは下記に事項を進めていく実践部隊である

- ・戦略、戦術の策定 何をやれば目標に到達できるか  
目標・戦略・実行
- ・関係機関との連携 協力依頼など調整
- ・各種イベントの企画、実施
- ・まちの維持管理 安心、安全
- ・環境の整備・充実 行政等への働きかけ
- ・情報収集・発信 各種媒体を通じての収集、発信

まちなか観光化に向けての当面の取組み案

- ・まちなかのイメージアップ(P R)戦略

当面のまちなか観光 300 万人から 500 万人へなど

- ・「まち歩きツール」の作成
- ・「まちなか観光ガイド」の育成
- ・初動期の「まちなか」事業としてのモニターツアーを実施し意見を聴取する

参考事例

- ・出石まちづくり公社の事業を資料により説明



日 時 平成 19 年 12 月 10 日（月） 午後 7 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
出席者 9 名  
内 容 中心市街地についての意見交換

主な意見

- ・活性化への長期目標を立て意見交換をすることが良い
- ・何年後に何をすべきか焦点を絞る（5 年後、10 年後）
- ・燈籠流し花火大会は市外の人からは評判が良い
- ・小さなイベントを数多く実施するより、まとめて大きなイベントにするほうが良い
- ・宮津では何か楽しいイベントを実施しているという雰囲気を作り出すことが必要
- ・誘客の対象を高齢者、若者、グルメなど絞る方策が必要、とり貝の活用は人気があった

日 時 平成 20 年 1 月 23 日（水） 午後 7 時 30 分  
場 所 宮津商工会議所  
講 師 (株)地域計画建築研究所 京都事務所 取締役 山口 繁雄氏  
出席者 9 名  
内 容 中心市街地活性化に向けての中、長期目標について意見交換

### 主な意見

- ・ 和火は市内の旅館から宿泊客を誘導して見物に来られ、今後も継続できないかという声があった。宮津の一大イベントとして広く育ててほしい。
- ・ 勢いついているイベントを重ね合わせて面白いことができないか。
- ・ メディアを使って話を大きく伝えることは効果があると思う。細川ガラシャなど話題性がある。
- ・ 舞鶴ではイーストハーバー構想があり、横浜とタイアップし赤レンガを売り出している。
- ・ 地元の土産物が開発できないか。
- ・ 地域映画「天国はまだ遠く」の撮影は終了したが、今後PRして地域の振興につなげていけないか。

以上の意見に対し、山口氏より感想並びにアドバイス

- ・ やることを決めてから集中したほうが良い。何を重点的にやるか2つ、3つ決める。
- ・ 情報発信は大事であり、みんな興味津々である。
- ・ 地方で何か魅力あるものが出せないか、土産物、まちなか景観など
- ・ オフシーズン対策の必要性

### 7. エリアマネージャー視察研修会

日 時 平成 20 年 3 月 4 日（火） 午前 9 時

視察先 株式会社 伏見夢工房（京都市）

参 加 7 名

内 容 (株)伏見夢工房のこれまでの取組みについて

講師 (有) 伏見夢プランニングセンター代表取締役

伏見観光協会専務理事

(株)伏見夢工房 観光担当部長 永山 恵一郎氏

永山氏は広島県出身で東京の大学卒業後、電通に就職  
中途退職後伏見で事業開始した。

28 年前の伏見での観光名所は寺田屋のみであった。

その後、地元の若いキーマンと一緒に地産地消を活用した事業を開始した。

昭和 57 年酒蔵を活用した伏見酒蔵寄席の開催と人力車を運行。

よそ者だから出来たのかもしれないが、成功事例を作ることが大事。

よそ者は企画、立案をし前面には地元の人を出すのが良い。

平成元年個人で町を流れる荒廃した河川の大型ごみを引き揚げ等の清掃活動開始。

平成 2 年伏見観光協会専務理事就任。

平成 6 年府港湾課より平安建都 1200 年祭記念事業として伏見観光協会へ宇治川派流周辺整備記念イベント事業の打診があった。

建都 1200 年記念祭イベントとしての伏見開港 400 年祭記念事業実施に伴い実行委員、企画事務局長に就任。

予算 1800 万円（府 4000 万円）。不足額約 3000 万円は実行委員 29 人が一人 100 万円ずつ出資することが合意したが誰も出さなかったが苦労しながら最終的に調達。

水運再現（十石船建造運行、三十石船復元）

仕掛けは事務局、実施は地元がする。

平成 9 年中心市街地活性化法施行。

平成 14 年 T M O(株)伏見夢工房設立。

京都市 200 万円、京都商工会議所 100 万円出資。

十石船の運行実施を T M O 夢工房へ委譲。

十石、三十石船の定期運行。

年収 4,800 万円、900 万円の黒字（3,800 人乗船）

観光案内、土産、喫茶「伏見夢百衆」店舗企画・運営。

河川への桜 120 本、ユキヤナギ 1,840 本等を他団体と連携して植樹。

酒蔵通りライトアップ「伏見花灯路」など実施。

まちづくり会社が既に活動している中での T M O を設立してまちづくり会社を立ち上げる場合は失敗する。

人材は、よそ者、ばか者、若者が必要。

- ・平成 15 年ジュニア河川レンジャー事業の実施

郷土愛、環境意識の向上に役立っている。

- ・平成 16 年鳥羽伏見の戦い慰霊祭「伏見万灯流し」復活再現

1 個 1,000 円で 9,800 個販売。

収益は商業部会事業に充当。

- ・平成 17 年度 京都府、京都市、宇治市、宇治市観光協会、伏見観光協会の 5 団体で「伏見、宇治広域観光連携協議会」を組織し事業を実施。

- ・平成 18 年度 伏見酒蔵寄席再現復活

伏見ブランドの創出

1 号商品：くらわんか豆腐

2 号商品：京美酒うどん

（課題）夢工房の危機

商業者は夢工房の収益を補助金感覚でいる。

現状が変わらなければ夢工房を観光協会へ引き揚げる旨通告した。

観光客は増加したが商店街の売上げ向上には、なっていない。

商業者の努力不足。

周辺施設への年間入り込み客

平成 2 年 約 32 万人

平成 18 年 約 82 万人

説明の後、永山部長のご案内で大倉記念館（月桂冠）、カップカントリー（黄桜）、寺田屋、竜馬通り商店街、紺屋町商店街、伏見大手筋商店街を視察した。



## 第3編 宮津ブランド確立事業

### 第3編 宮津ブランド確立事業

#### 宮津ブランドー1分科会

日 時 平成19年5月2日(水)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 5名

#### 内 容

1) 平成19年度事業計画(案)について

魅力ある土産物づくりについて

ちくわ等の煉製品を進物用に使えるように出来ればと考えている。内容、予算などを宮津煉製水産加工業協同組合と協議したい。

あじ料理コンテストについて

秋の実施に向け、要綱について検討。

日 時 平成19年5月11日(金)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 7名

#### 内 容

1) 平成19年度事業計画について

魅力ある土産物づくりについて

消費者の意見だけではなく、製造者である宮津煉製水産加工業協同組合の意見も聞き、検討したい。日持ちの問題、販売店のリベートの問題などを検討。

「あじ料理コンテスト」について

10月実施予定。実施内容詳細について今後検討。

日 時 平成19年5月23日(水)午前9時

場 所 宮津商工会議所

出席者 26名

#### 内 容

市長と各分科会座長との懇談

1) 井上市長あいさつ

宮津の歴史文化、食を通して全力を挙げて新しい宮津に向け頑張る旨あいさつ

2) 平成19年度事業計画について

・「宮津ブランド分科会」大江座長より

あじのアイデア料理を募集し、試食コンテストを実施

煉製品をセット&パッケージで蘇らせた。

・「まちなか観光」分科会 稲葉座長より

「まちなかサイン」作成に向けて、府立大学の三橋教授にデザインを依頼した。

- ・「人材育成分科会」土井座長  
「まちなか案内人」の組織化  
「エリアマネージメント」の募集と研修

3) 山口アドバイザーからのコメント

- ・実行するには時間がかかる。
- ・目標、理念をもつこと。
- ・どんなまちを目指すのか、イメージが必要。
- ・ターゲットをどうするか。
- ・モニターツアーをKTRとJRを巻き込んで実施してはどうか。
- ・事業費を今後どうするか。
- ・基金を丹後人会等への依頼してはどうか。
- ・「宮津まちなか観光推進協議会」は調整機能をするのが役割。問題は実行部隊をどうするかである。

日 時 平成19年5月24日(木)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 12名

内 容

宮津煉製水産加工業協同組合との協議

1) 宮津ブランド - 1分科会の取組について

平成17年度当所50周年事業で取り組んだ産業ビジョンの策定について、また、それを受けて平成18年度に3分科会で取り組んだ事業について説明。

2) 意見交換

- ・朝市に商品を出すため夜中に仕事をしており、昼間の事業に対応できない。
- ・将来のことを考えるとネット販売は不可欠である。
- ・観光客だけではなく市民に進物として利用していただく方法を検討すべき。
- ・1社の商品だけでなく数社の商品をセットにする。

3) 今後について

- ・お歳暮シーズンに数社セットの進物パックとして取引できるようパッケージについて企画検討。
- ・あじ料理コンテスト広報チラシの裏面を利用してPRする。

日 時 平成19年6月20日(水)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 7名

内 容

- 1) 魅力ある土産物づくり 煉製品パッケージについての報告
  - ・ 5月21日の煉製品組合5名との会議について事務局より説明。
  - ・ 年末に向けて、お歳暮などに使える煉製品のセットパッケージを作る。
  - ・ パッケージ内容やデザイン等の細部については煉製品組合・正副座長・事務局で詰めていき、分科会に報告する。
- 2) あじのキャッチフレーズの募集について
  - ・ 料理コンテスト審査員がコンテスト当日にキャッチフレーズの審査も行う。
  - ・ 募集の際、文字数の他「宮津らしさが出る言葉を使う」など条件をつける。
- 3) あじコンテスト実施要綱(案)について
  - イ. 日 時  
平成19年10月22日～26日の間で検討。
  - ロ. 場 所 宮津商工会議所 3階大会議室  
会場のディスプレイを考える。(テーブルの白布・よしず・大漁旗など)
  - ハ. 参加者について  
プロ(審査対象外)とアマで枠をわけろ。
  - ニ. 食材について
    - ・ 参加者各自で食材を購入。
    - ・ 1チームあたり3,000円以内の食材費で2品以内の出品とする。
    - ・ 参加者への食材費の支払いは商品券等の利用を検討する。
  - ホ. 試食について  
一般参加の人数制限(先着 名など)や、年齢規制などを作る。
  - ヘ. 賞  
審査員1名につき1つの賞を決定。
  - ト. 審査員、審査方法(審査基準)について  
出品料理(または、受賞料理のみ)のレシピやコメントを作成する。
  - チ. 周知方法  
新聞折込チラシ、商工会議所会報・HP

日 時 平成19年6月28日(木)午後2時  
場 所 宮津商工会議所  
出席者 9名  
内 容

宮津煉製水産加工業協同組合との協議

- 1) 煉製品セット&パッケージ 実施スケジュール  
商品の配達は10月(9月末締切)・12月(11月末締切)の2回実施。9月上旬～中旬に新聞折込チラシで広報を行う。
- 2) 内容物の決定  
ちくわ・野菜天ぷら・かまぼこ

3) パッケージサイズの決定

縦38cm×横20cm×高さ9cm、その1.5倍ほどのものを試作し、  
運送業者との送料の交渉に使用。

4) パッケージデザインの要望(概要)

- ・購入すると思われる年代(50歳ぐらい)を考えると、遊び心のあるものよりは天橋立や智恵の輪が描かれている程度の無難なものの方が良い。
- ・各商店のラベルを貼れば商店単独でも使える形のものにする。

5) セット料金の決定

3,000円セット(送料込み)

- ・ちくわ3本入×3袋
- ・野菜てんぷら3本入×3袋
- ・かまぼこ3枚           はんぺん製造業者への協力を要請し、セットに追加することを検討する。

5,000円のセットも検討する。

6) チラシ原稿

9月上旬～中旬のあじコンテストチラシの裏面を使用。FAXでの注文書を付けたものを作成。10月販売分の購入者には12月販売分の案内をする可能性などがあるため、その旨も含め、個人情報取り扱いについて記載する。

7) 商品の取りまとめと送金先(口座) 梱包と発送

代金振込口座は組合のものを使用。現在のものを使用するか新しい口座を開設するか等、組合で検討。梱包と発送についても組合で対応。アルバイトの使用を検討する。

8) 商品内にパンフレットの挿入

今後につなげるために各商店のパンフレット、またはパソコンで作成した共同のパンフレットを同封する。今回参加していない組合員については、商店名のみ記載する等の方法を検討。

日 時   平成19年7月3日(火)午後2時

場 所   宮津商工会議所

出席者   9名

内 容

宮津煉製水産加工業協同組合との協議(第2回)

1) セット内容について

2,800円セット内容

- ・ちくわ3本入×3袋
- ・野菜てんぷら3本入×3袋
- ・かまぼこ3枚

5,000円セット内容

2, 800円セットに、はたはたとあじの干物を追加。

## 2) 受注・発送スケジュールについて

ゆうパック(クール)を利用。箱の高さと縦の長さを再度検討。

### 10月分予定

9月30日 受注締切  
10月10日頃 入金締切  
10月18日着で商品発送

### 12月分予定

11月30日 受注締切  
12月10日頃 入金締切  
12月13日着で商品発送

日時 平成19年8月3日(金)午後1時30分

場所 宮津商工会議所

出席者 10名

内容

### 1) 煉製品パッケージ実施内容の確認

煉製品パッケージデザインに対する意見

- ・ロゴ「宮津のうまい」をもっと大きな文字に。
- ・もっとインパクトが欲しい。
- ・魚の絵を入れたい。(いわし・トビウオなど)
- ・中央の「MIYAZU」を漢字に変更したほうが良い。
- ・「丹後天橋立大江山国定公園」の表示を追加しては。
- ・宮津節の歌詞を入れては。
- ・「がっさいうまい！」等、宮津弁を入れては。
- ・ロゴの「京都宮津」の部分を「丹後宮津」又は「京都丹後宮津」に変更。
- ・竹中罐詰のような切り絵のデザインにしてはどうか。

煉製品パッケージチラシに対する意見

- ・ちくわは「いわしちくわ」、かまぼこは「宮津かまぼこ」と記載。
- ・FAXがない人への対応を検討。
- ・のしについて「粗品・お歳暮・無地」などを記載し、希望するものに を付してもらう形式にする。
- ・募集が2回(10月・12月)あるため、申込書をコピーして使ってもら う旨の文章を追加する。

同パッケージの販売計画について

各分科会の委員にチラシの配布と購入を依頼。

その他意見など

- ・パッケージに同封するパンフレットを煉製品組合員で作成中である。
- ・チラシは新聞折込だけでなく、煉製品組合窓口や商工会議所窓口ほか、可 能な場所に設置してもらう。

### 2) あじキャッチフレーズ募集・コンテスト実施内容の確認

#### キャッチフレーズ募集について

- ・分科会委員である程度の選定をするために募集締切をあじコンテスト実施日を7日から10日前に変更。

#### あじコンテストについて

- ・日時を10月24日(水)を25日(木)に変更。
- ・募集開始と同時に新聞社へPR。「安定供給」「健康にいい」などを裏付ける資料や受賞者のコメントを用意するなど、取材への対応準備。
- ・賞についてチラシに簡単に記載する。
- ・審査員の変更を検討。

日 時 平成19年9月14日(金)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 山口アドバイザー他15名

内 容

#### 1) 宮津産業ビジョン各分科会事業経過報告

##### ・まちなか観光分科会

まちなかサインの表示内容・形について説明。又、設置候補場所である新浜地区をメインとしたおもてなしを基本としたサイン製作に向けて協議を進めている。

##### ・人材育成分科会

本年度よりまちなか観光の案内人に関心のある方10人程お集まり願います。今後の研修方法について意見交換した。その中でまちなか観光分科会で作られたモデルコース毎の案内原稿作りが先決であるとの意見があり、毎月集まり原稿作りをしている。

今後、先進地視察を行う予定である。エリアマネージャーについてはこれから人選の予定。

##### ・宮津ブランド - 1分科会

煉製品を贈答品として利用できるよう、セット用の箱を作成。お届け日を指定して10月と12月に試験的に販売実施予定。次年度以降は煉製品組合が主体となって販売予定。アジの普及に向け、キャッチフレーズの募集と料理コンテストを実施予定。料理コンテストでの受賞作品は、新聞記事、商工会議所HP、会報などで公開し、PRに活用する。

#### 2) 山口氏からの助言

##### ・まちなか観光分科会

新浜などの拠点作りを行う。宮津出身の市民グループ等に協力を仰ぎ、まちなか観光を宮津外に発信してもらう。

##### ・人材育成分科会

案内人の実践的な講座を実施してみる。20年度案内人の募集をし組織を作

る。マイクなど備品もそろえる。エリアマネージャーは、まず中心となる人を指名することから進める。

・宮津ブランド - 1分科会

煉製品セットパッケージについては、単発の企画にならないよう、次年度以降につなげる仕組みづくりが大切である。お届け日を自由に指定できるようにするなど、改良が必要。アジのPR方法として、料理コンテスト受賞作品をイベントで活用、レシピの作成、会議所HPや会報での継続的な情報発信など。商工会議所単独ではなく、府や市と協同でPRを実施。仕上げの年にふさわしい「宮津ブランド認定制度」を創立すべし。

3) 各分科会の今後の調整について

次年度は宮津産業ビジョンの3年目にあたり、これまで各分科会で進めてきた事業を一つにまとめて行く時期でもある。お互いの分科会の情報交換を密に行い、共同で事業を推進していく必要がある。

日 時 平成19年10月11日(金)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 9名

内 容

1) 煉製品セットパッケージについて

第1回(10月18日お届け)

受注数65件(市内19件・市外46件)

売上数Aコース44個・Bコース24個

- ・京都新聞記事の効果で市外からの申し込みが多かった。
- ・チラシが日曜折込だったことと両面印刷だったことで効果が薄かったと思われる。
- ・パッケージに、チラシ・礼状・レシピを同封する。
- ・第2回(12月13日お届け)に向けて煉製品組合でチラシを発行。費用は参加3店で負担。
- ・来年度以降は小売店での販売対応が検討課題。(お届け日の指定、季節ごとのパッケージ内容の変更など。)



2) あじ料理コンテスト・キャッチフレーズ募集について

31点の応募があり、審査員(栄養士)による一次審査で補欠を含む10点が選出された。

3) 平成20年度事業計画について

- ・あじ料理コンテスト受賞作品のレシピ作成、配布。
- ・あじのPRイベントの実施。マスコミの有効活用。
- ・旅館、料理屋などのあじに対する意識調査。

日時 平成19年10月25日(木)午後3時

場所 宮津商工会議所

出席者 30名

内容

あじ料理コンテスト

1) 料理(応募総数31点)

最優秀賞: あじなり

優秀賞 : 宮津の餅アジロールブラックペッパーソース

委員長賞: 鮓とクロクチ貝の南蛮漬け 栗田の山の芋がけ

宮津ブランド-1分科会座長賞: あじの照り焼きベーグルバーガー

入選: 丹後の宮津でピンと出した 小鮓3種類

入選: 鮓愛(あじわい)丼

入選: アジのカルパッチョ



最優秀賞: あじなり



優秀賞 : 宮津の餅アジロール  
ブラックペッパーソース

2) キャッチフレーズ(応募総数54点)

入選: こりゃ美味しい さすが取れたて「宮津アジ」

最優秀賞該当作品なし

日 時 平成19年11月9日(金)午後1時30分

場 所 宮津商工会議所

出席者 9名

内 容

1) あじ料理コンテストについて

料理

- ・ 今後は商工会議所単独ではなく京都府・宮津市と協力してPR。
- ・ イベントなどでの受賞料理披露を検討。
- ・ コンテストを一般の人も見られる形のほうが良かった。
- ・ レシピを作成するなどして普及する。
- ・ 食堂などで受賞料理が食べられる仕掛け作りを。
- ・ HP、会報などで定期的にPRを行う。
- ・ マスコミを利用したPR。

キャッチフレーズ

- ・ 他の食材もテーマに含めて募集したほうが良かった。

2) 煉製品パッケージについて

- ・ パッケージに商品に関するアンケート同封を検討。
- ・ 煉製品組合の活性化については、繰り返し協議が必要。
- ・ 販路拡大、コスト計算、ネット販売への対応など今後の課題については生産者が検討するのは難しい。生産者以外の者での検討が必要。

3) 平成20年度事業計画について

- ・ 宮津海の恵みブランド化推進会議で干物に関するパンフレットを作成予定あじの掲載を検討。